

保護者 様

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

三木市教育委員会

平成 30 年 4 月 17 日に、全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に行われた標記調査の本市の結果をお知らせいたします。

「学力」とは、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断、行動し、より良く問題を解決する資質や能力等まで含めたものを言います。このため、本調査により測定できるのは、学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であると言えます。

しかしながら、本調査で測定できる学力は重要な要素であるため、学校、家庭が学力の向上について共通理解を図りながら、取り組む必要があります。保護者の皆様におかれましては、学校と連携し、共に三木の未来を担う子どもたちを育てていただきますようお願いいたします。

学力に関する状況（全体の概要）

各教科の正答率は、全国の正答率と比較して、小・中学校ともに、概ね±5%の範囲内にあり、全国と大きな差は見られないと言えますが、より細かく見ると、小学校は算数の知識を問う問題で正答率が特に下回っており、中学校は全ての教科において、正答率がやや上回っています。

全国の結果と同様に、各教科とも「知識」に関する問題に比べ、「活用」に関する問題の平均正答率が低くなっています。

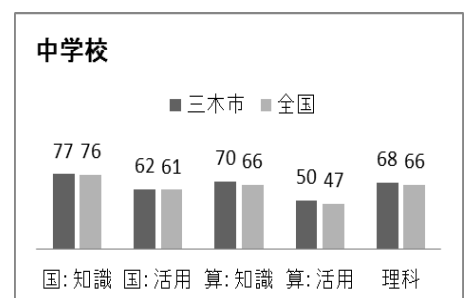
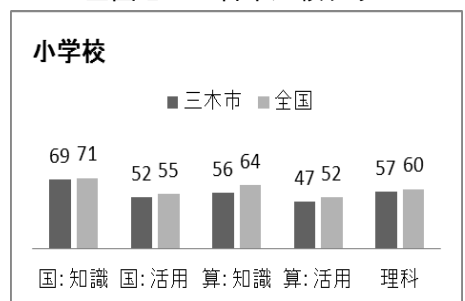
調査結果（全国比較）を、平成 30 年度と平成 29 年度（理科は平成 27 年度）で比べると、対象となる児童、生徒は違うものの、小学校においては、国語の活用問題で改善傾向が見られましたが、算数は知識、活用ともに課題が見られました。中学校においては、数学の活用問題で改善傾向が見られました。

本年度の中学 3 年生の調査結果とその生徒が小学 6 年生時の調査結果の全国比較を比べると、全ての教科において改善が見られます。

【平均正答率の状況】

	教 科		平成 30 年度			平成 29 年度	現中学 3 年生が小学 6 年生の時 (H27 年度) の全国との比較 ※小学 6 年生時は算数
			本市	全国	全国との比較	全国との比較	
小学校	国語	知識	69	71	-2	-2	
		活用	52	55	-3	-5	
	算数	知識	56	64	-8	-3	
		活用	47	52	-5	-4	
	理科		57	60	-3	-3 (H27)	
中学校	国語	知識	77	76	+1	+2	-4
		活用	62	61	+1	+2	-3
	数学	知識	70	66	+4	+4	-3※
		活用	50	47	+3	+1	-2※
	理科		68	66	+2	+1 (H27)	-3

H30：全国との正答率比較グラフ



小学校の調査結果の概要

小学校国語

「慣用句の意味を理解して使うこと。」や「自分の意見について、事例などを挙げながら筋道を立てて伝えること。」は、定着傾向にあります。

「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと。」や「話し手の意図と自分の意見とを比べるなどして考えをまとめること。」に課題があります。

小学校算数

「同じ面積での、混み具合の比べ方」や「 180° の角の大きさ」は、定着傾向にあります。

「情報をもとに、グラフが何に着目して書かれているかを記述すること。」や「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断すること。」に課題があります。

小学校理科

「堆積作用についての理解」や「生物に対する理解」は、定着傾向にあります。

「実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述すること。」や「実験結果から、他人のまとめをふさわしい内容に書き換えること。」に課題があります。

中学校の調査結果の概要

中学校国語

「漢字の読み」や「慣用句の理解」、「古典と現代語訳とを対応させて内容を捉えること。」は、定着傾向にあります。

「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。」や「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと。」に課題があります。

中学校数学

「簡単な比例式や連立二元一次方程式を解くこと。」や「単項式同士の除法の計算」は、定着傾向にあります。

「解釈した計算方法を、数学的な表現を使って説明すること。」や「証明の必要性や意味の理解」、「一次関数の意味の理解」に課題があります。

中学校理科

「地震の揺れの伝わり方と音の伝わり方に関する知識を活用すること。」や「電流・電圧と電力の関係に関する技能を活用すること。」は、定着傾向にあります。

「ガスバーナーの炎の色と空気の量の関係を科学的にとらえること。」や「器の中の湿度が高くなる原因を指摘すること。」に課題があります。

家庭での学習の進め方ポイント

1 基本的な学習習慣、生活習慣の確立

小学校では、学校の宿題などの反復学習が、基礎学力の定着につながる一つの要因であるため、家庭においては生活リズムを整え、決まった場所と時間で、宿題等の学習に集中できる環境を整えることが大切です。中学校では、自主学習等、自分で課題を見つけ、追求する力を付けることが大切であり、限られた時間の中で、自主的に計画を立て、効率的に学習を進めるためにも、時間の使い方が大切になります。

2 「目をかける」ことの大切さ

子どものがんばりを認め、ほめるなど、いつでも見ているという「目をかける」ことが、子どもの自尊感情を育て、学習意欲の向上につながります。

家庭での学習・生活習慣と学力の相関関係

- 自分で計画を立てて勉強する児童、生徒ほど、正答率が高い傾向があります。
- 朝食をしっかりと食べる、毎日同じ時刻に寝るなど、基本的な生活習慣が身に付いている児童、生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

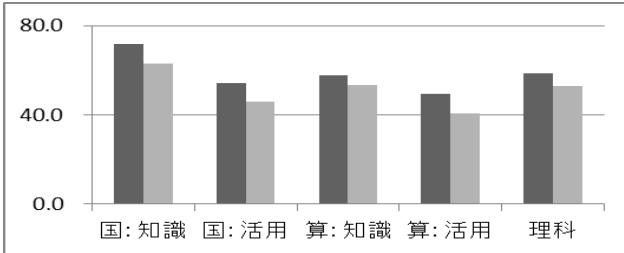
【学習習慣や生活習慣と平均正答率のグラフ（三木市）】 ※縦軸は、平均正答率

Q：家で、自分で計画を立てて勉強していますか？

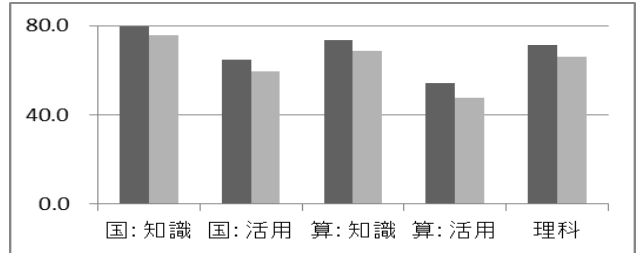
■している・どちらかといえばしている

■あまりしていない・まったくしていない

小学校



中学校

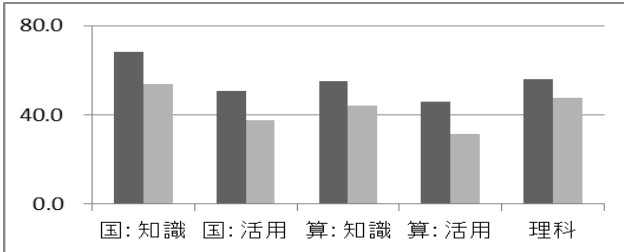


Q：朝食を毎日食べていますか？

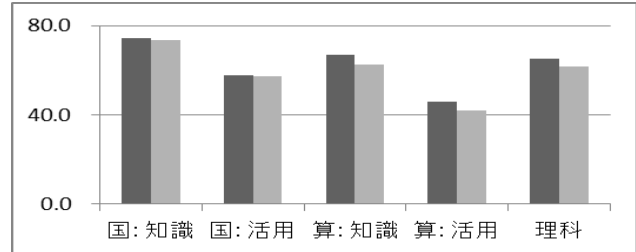
■食べている・どちらかといえば食べている

■あまり食べていない・まったく食べていない

小学校



中学校

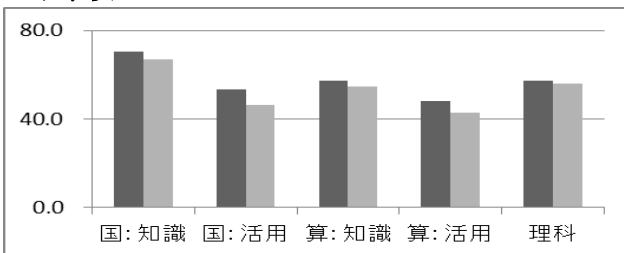


Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか？

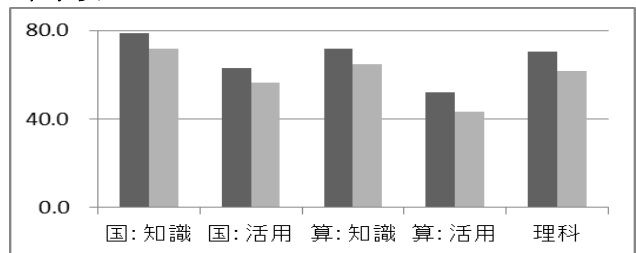
■している・どちらかといえばしている

■あまりしていない・まったくしていない

小学校



中学校



望ましい学習習慣と生活習慣を

学習・生活習慣は、学力と密接な関係にあります。毎日の規則正しい食事や就寝時刻、家庭での学習時間などについて、子どもと話し合う時間を持っていただきたいと思います。その際には、各家庭に配布している「みきっ子家庭学習ガイド」を参考にしてください。

学習習慣や学習環境等に関する状況

- 小学校、中学校ともに、家庭において学校の授業の予習、復習をしている子どもの数が、全国と比較して三木市は低い傾向が見られます。さらに学力を向上させるためには、家庭での学習を充実させる必要があります。
- 「学校の決まりを守る。」「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」などについては、小学校、中学校ともに、肯定的な回答をする子どもの割合が、三木市は全国と比較して高くなっており、規範意識の定着が見られます。
- 生活習慣については、全国と比較して、地域行事によく参加している傾向があります。一方で、放課後にテレビを見たり、インターネットをしたりして過ごしている子どもの割合は、小・中学校ともに、三木市は全国平均より高くなっています。

三木市教育委員会（学校）の今後の取組

三木市教育委員会と各学校は、本市の課題について、次のとおり具体的な方策を進めます。保護者の皆様におかれましては、三木市全体の結果を参考に、配布しております個人票を見ていただき、個々の課題についてお子様と話し合うなど、学習習慣及び生活習慣の定着等にご協力をお願いいたします。

課 題	具体的方策
学習習慣及び生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭向けリーフレット「みきっ子家庭学習ガイド」の活用を今後も継続し、家庭学習の時間の確保など、家庭と連携した取組を進めます。 ・学校で学んだ学習内容を、児童、生徒が自主的に復習することができる学習課題を市で提供するなど、家庭において継続して学習する習慣が定着するよう支援します。 ・『特別の教科 道徳』において、授業力の向上を図り、道徳性を養うとともに、規範意識のさらなる高揚を促す取組を進めます。
指導方法の工夫と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を示す活動や振り返り活動を効果的に取り入れる授業研究など、学力向上に係る授業改善の実践を継続して行い、指導方法の工夫を行います。 ・本年度の全国学力・学習状況調査の結果をもとに、課題のある学習内容を重点的に指導できる資料を改訂します。 ・授業の指導方法についてのデータベースを充実し、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導や授業改善に活用します。
補充学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後に、地域指導者や大学生等を講師として、個々の進度に応じた学習を行う「ひょうごがんばりタイム」等の補充学習の充実を図ります。